

第8回監視社会研究会（通算第26回研究会）2009年3月24日

認証社会と監視社会

平田剛士さん（フリーランス記者）

平田剛士さんのウェブサイトに掲載された2009年3月の監視社会研究会での報告を転載させていただきますました。小見出しは事務局でつけました。

みなさん、こんばんは。フリーライターの平田剛士です。きょうは監視社会研究会にお招きいただき、ありがとうございます。

「認証」が日常生活の中に

ちょうど一年ぐらい前から、『週刊金曜日』に「認証社会」というタイトルの記事の連載をしています。

「認証」というのは、いま目の前にいる相手がどこの誰だか、身元をしつ

かり確認する、ということですが。それがどういう場面で必要かと言えば、まずはお商売です。レジで現金払いしてくれるお客のことは、認証なんてする必要ありません。その場で決済が終わるからです。

認証が必要なのは、ですから代金後払いの時。クレジットカードが良い例で、店員さんはカードがホンモノかどうか、残高が十分かどうかを信販会社にか、残高が十分かどうかを信販会社に確かめ、カードの持ち主が本人かどうかをサインとか暗証番号で確認します。「後でちゃんと代金を支払えよ、あなたの身元はちゃんと押さえたかな」と、口では言いませんけれど態度でそう言っている。これが認証です。

もうひとつ、認証が必要とされる場面があります。チャレンジ、つまり「お

まえは誰か？」と誰何する時です。軍隊で、歩哨の第一の役目は警戒です。

陣営に見知らぬ人物が近づいてきたら銃口を向けて制止し、身元を質すわけです。名前を言ってIDカードを見せるとか、そういうことをして怪しい者ではないと身の証を立てないと進めないわけですが、これが認証。特定のエリアに部外者を入れないために、ゲートのところで必要不可欠な手続きなのです。

商売にせよチャレンジにせよ、「認証」とはこのように本質的に緊張感をたえた行為なのだと思えます。

こうした認証のプロセスに、昨今の情報技術、いわゆるITが猛烈な勢いで注ぎ込まれている、ということはみなさんお気づきだと思います。その結果、認証という、本質的に緊張感あふれる行為が、どんどん市民の日常生活のなかに入ってくるようになった。このことに、何とはなしにブキミさというか、違和感を抱いた方も多いのではないのでしょうか。そこで、このブキミさの正体に少しでも迫ることができた

らオモシロイかもしれない、と思つて、記事の執筆にかかりました。

電子マネーの使用は個人情報管理企業に自ら報告すること

最初は電子マネーに注目しました。代表はSuicaです。「誰何」にかけたダジャレじゃないですよね……。インターネットのウイキペディアによりますと「Suicaの語源は「Super Urban Intelligent Card」の略称で、「スイスイ行けるICカード」の意味合いも持たせている。また、野菜の西瓜と語呂合わせをして親しみやすくしている」(<http://ja.wikipedia.org/wiki/Suica>) とのことですが。

みなさんのお財布にも入っているのではないのでしょうか。カードをかざすだけでゲートが開いて電車に乗れる。コンビニやスーパーでものが買える。JR東日本のプレスリリースによりますと、Suicaの発行枚数はこの2月末で二七五万枚だそうです。JR西日本はICOCA、JR北海道もKitacaとい

たばこ協会

タスポ履歴検査に提供

罰金未納者特定ケースも

たばこ協会が保有するタスポ履歴を、警察や検察に提供することになった。罰金未納者や、犯罪歴のある者を特定するための調査に活用される。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。

個人情報疑問の声

タスポ履歴を警察や検察に提供することになった。個人情報保護法に基づき、タスポ履歴は個人情報として扱われる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。

東京新聞 2009年7月26日付

うのを発行しています。

会社によって名前は違いますが、これらのカードは全部、同じ基本フォーマットで作られています。ソニーが開発した「フェリカ」というフォーマットです。外からは見えませんが、ツメの先ほどのICとアンテナが挟み込んであって、ちよっとしたネットワークコンピュータの働きをするのです。スーパーやコンビニエンスストアの電

情報管理を透明に
利用者に配慮必要
個人情報保護法に基づき、タスポ履歴は個人情報として扱われる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。タスポ履歴は、タスポを保有している者の氏名、住所、生年月日、性別、職業、年齢、収入、教育レベル、家族構成、過去の履歴情報などが含まれる。

子マネーも同じフェリカ。改札機やレジと連動した「リーダーライター」と呼ばれる機械にこのカードをかざした瞬間、持ち主がだれかを「認証」し、続いて勘定が行なわれます。

その記録は残高だけでなく、日時と場所、商品名に、もちろん個人情報も一緒に、ワンセットでスーパーに記憶されます。管理者にとってこれほど高精度なマーケティングリサーチ法はあ

りません。Suicaと同じく、乗り降りの記録が氏名・性・年齢・電話番号といった個人情報とワンセットで克明に記録されます。いったんデータを集めたら、あとはコンピュータの独壇場でしょう。年齢別・性別・時間帯別・地域別・商品別……、分類と抽出はお手の物です。

「成人識別たばこ自動販売機専用ICカード」、通称*taspo*はもつと露骨です。社団法人日本たばこ協会・全国たばこ販売協同組合連合会・日本自動販売機工業会という3つの業界団体が発行していますが、自販機でタバコを買うとき、このカードを差し込まないと機械が動きません。やはり持ち主を認証するのですが、非常にフクザツなことをやっています。こんどタバコの自販機をよくご覧になってみてください。てっぺんにアンテナが付いています。NTTのFOMAの周波数帯を使って、データセンターに常時接続されているそうです。カードが差し込まれるたびにデータ通信が始まって、認証と勘定の記録がセンサーに記録される

仕組みです。

愛煙家の人権はどうなっているの？と思いませんか。写真付きのカードなんて、まるで身分証です。おまけに購買記録が克明に残る。いま喫煙のリスクは細かに研究されていますから、このデータから余命の計算もできてしまう。本人だって知りたくない究極のプライベートではないでしょうか。

電子マネーの利用記録は、後からインターネットを通じて自分でも確認できるようになっていたので、家計簿代わりに便利に使用しましょう、と指南する記事も見かけますけれど、よく考えると、これはかなりコワイ。自分の家の台所をお店に覗かれているようなものです。いま企業の合併吸収は日常茶飯事です。ある企業が蓄積したあなたの購買記録が、合併やら吸収やらによって、次にどうなるのか。だれにも分かりません。

いま、自分の個人情報誰か第三者に知られてしまうことに、みんな異常なほど敏感になっています。もうだいぶ以前から、電話帳に住所・電話番号

を載せない人がとても増えました。小學校の連絡網にさえ、番号を載せたくないという人も多いそうです。わたしにはそれは一種の過敏症に映るのですけれど、いっぽうで、電子マネーを使うことで、買い物記録、移動記録、健康記録まで、管理企業に対して自ら克明に報告してしまっていることに對しては、人々はどうも鈍感過ぎる気がします。

受刑者一〇〇〇人全員に電波発信器 美祿社会復帰促進センター

ITによる認証シンのうち、今度「誰何」の場面を見てみましょう。もっとも監視が厳しい場所はどこだろう？ と思索して、刑務所を見学に行きました。場所は山口県の美祿市。一昨年、新しく建設された美祿社会復帰促進センターという施設です。日本初のPFI刑務所、としてご存じの方も多いいと思います。PFIは「社会資本の整備を民間事業化する経済政策」という意味です。法務省と一緒に、セ

コム・竹中工務店・日立製作所・小学館プロダクションといった企業が運営に参画しています。民間と協働する手法によって、建設・運営のコストを8%ほど削減できたとのことでした。

キャッチフレーズは「開かれた刑務所」。しかし受刑者にはそういうわけにはいかず、一〇〇〇人全員が電波発信器(タグ)を持たされて、四六時中、監視にさらされています。指紋認証とか振動センサー、ドア制御システムなどなど、まるでセキュリティ製品のシヨールームといった趣でした。

こうした監視のきつさは、刑務所ですから、まあ当たり前かもしれない。でも、無線タグによる見張りを取材して、なんだ、これと全く同じことがもつと身近なところでも行なわれているんじゃないか、と思いつきました。いくつかの自治体が、小学生のランドセルに無線タグを付けて、学校の玄関でタグが反応するたび、ネットワークカメラが写真を撮って保護者のケータイに画像を送る、というサービスを始めています。総務省による「地域児童見

守りシステムモデル事業」の一環です。〈児童が犯罪に巻き込まれる悲惨な事件が後を絶たず、地域における児童の安全確保が喫緊の課題となっていることから、ICTを活用した「地域児童見守りシステムモデル事業」を実施し、安心・安全な地域社会の実現を目指す〉という内容です。

「監視」ではなく「見守り」。言葉つて、チカラがありますよね。国家権力が受刑者に行っているのと同じことをわが子にして、親は「安心」を得ているのです。

このサービスで安全確保が本当にできるのかどうか、科学的に効果を調べる必要があるのですが、これは簡単ではない。代わりに利用者アンケートが採られる。すると非常に高率で「安心感が高まった」という答えが返ってきます。何と言ってもタダですし、親にとっては確かに安心ですから。他にどこにセンサーを付けたら? という誘導(?) 質問には「通学路にも」「児童公園にも」とリクエストが寄せられる。これで「事業は成功」です。

「子ども」の次は「お年寄り」がタグを持たされることでしょうか。その次は「ハンディのある方たち」でしょうか? さらに「ホームレスの方々」: : ? これがコミュニケーションでの相互監視社会化の扉を開くだろうことは、想像に難くありません。

生体認証装置の活用が日常風景に

職場ではどうでしょう。企業向けの防犯用品を開発・販売している会社を訪ねると、自社製品を自分たちの職場にフル装備して、デモンストラーションのために公開していました。重要部署ほどセキュリティは厳重で、社員証認証、パスワード認証、顔認証、指紋認証、虹彩認証と、いろんなレベルの認証装置が使い分けられています。これ、部外者を見張るだけではないんです。むしろ内部犯行を防ぐ仕掛けがそこかしこに張り巡らされています。

正社員相手さえこれですから、経営者たちは派遣さんバイトさんのこと

士の縦割りの壁である、というのは皮肉です。

「便利さ」の名のもとに蓄積・利用されるプライバシー情報

性悪説の立場で国民を監視しようとするのは警察も同じです。自動車ナンバー自動読み取りシステム、通称Nシステムは早くも昭和時代に整備が始まって、いまもつと普及している画像認証装置だと思えますけれど、その取材の過程で、高速道路にはNシステムだけでなく、いろんな認証装置が注ぎ込まれていることに気づきました。たとえば、いま車載器が品切れだというETC。国交省主導の電子マネーの一種ですが、やはり無線通信で認証と勘定、そして履歴の記録が行なわれる仕組みです。高速道路の料金所のみならずサービスエリアとか駐車場とか、あるいはトラックの出入り管理とか、同じ装置がいろいろな場所で行なわれて利用されています。つまりETCは新しいタイプの道路インフラなのです。

道路特定財源を使った料金割引と取付助成のサービス攻勢でとにかく装着率を高めて、道路側にも通信アンテナをどんどん作る。自動車業界にこんな手厚い公共事業はありません。と同時に、クルマ一台一台の旅行履歴はデジタル情報としてどんどんサーバーに蓄積されるいっぽうです。プライバシー度の高い情報だと思えますが、そうしたことを知らされないまま、ユーザーは目の先の安さ・便利さに惑わされてしまっている気がします。

「一度コンピューターに入ったものは無限に再利用できる」

「一度コンピューターに入ったものは無限に再利用できる」。連載中に何度か引用したマイケル・ハートというアメリカ人の言葉です。彼は英文テキストの電子化を目指して一九七一年に始まった「グーテンベルク計画」の創始者です。電子マネーにせよ、e-Taxの申告書にせよ、デジタル認証を受けるたびにみなさんの情報はデジタル化

されてサーバーに送られます。その情報は、所期の目的を果たした後、もしかしたら別の目的に使われるかも知れません。しかも、もしそうされたとしても、それを知る術は全くありません。IT認証社会が不気味な理由は、どうやらこのあたりにありそうです。きょうのわたしの話題提供が、そんなことをみなさんにお考えいただけような機会になれば嬉しいと思います。

ご静聴をありがとうございました。

カンパをお願いします

郵便振替

口座番号 00140 - 9 - 498989

口座名 監視社会を拒否する会